



Cisco Unity Connection インストールガイド

Release 2.x
Published May 30, 2007

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCVP, the Cisco logo, and the Cisco Square Bridge logo are trademarks of Cisco Systems, Inc.; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn is a service mark of Cisco Systems, Inc.; and Access Registrar, Aironet, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, IP/TV, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, ProConnect, ScriptShare, SMARTnet, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, and TransPath are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0705R)

このドキュメントで使用しているインターネット プロトコル (IP) アドレスは、実在のアドレスではありません。ドキュメント中で示される例、コマンドの画面出力、および図は、いずれも視覚的な説明のみを目的としています。実在する IP アドレスが例示されていた場合、それらは意図して使用したものではありません。

Cisco Unity Connection インストレーション ガイド
Copyright © 2007 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.



CONTENTS

このマニュアルについて v

対象読者と用途 v

表記法 v

Cisco Unity Connection のドキュメント vi

技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン vi

シスコ製品のセキュリティの概要 vi

CHAPTER 1

Cisco Unity Connection 2.x システムのインストールに必要なタスクの概要 1-1

パート 1 : Cisco Unity Connection サーバのインストールと設定 1-2

パート 2 : 管理者のワークステーションのセットアップ 1-2

パート 3 : 電話システム連動のセットアップ 1-2

パート 4 : システムへのユーザ データと通話管理データの入力 1-3

パート 5 : システムの機能の設定 1-5

パート 6 : VPIM ネットワーキングのセットアップ 1-5

パート 7 : ユーザのワークステーションのセットアップ 1-6

パート 8 : Cisco Unity Connection データのバックアップ 1-6

パート 9 : 教育 1-6

CHAPTER 2

オペレーティング システムと Cisco Unity Connection のインストール 2-1

重要な考慮事項 2-1

インストールに関する FAQ 2-2

どのパスワードを指定する必要がありますか 2-2

このインストールでシスコがサポートしているのは、どのようなサーバですか 2-2

他のソフトウェアをサーバにインストールできますか 2-2

ブラウザ要件 2-3

ハードウェアの設定 2-3

インストール情報の収集 2-4

Cisco Unified Communications Answer File Generator の使用方法 2-9

インストール中のネットワーク エラーの処理 2-10

インストールの概要 2-10

新しいオペレーティング システムとアプリケーションのインストール 2-11

インストーレーション ウィザード内の移動 2-11

インストールの開始	2-11
既存の設定情報の入力	2-13
基本インストールの実行	2-13
サーバの設定	2-15
インストール後の作業	2-17
デフォルトのアプリケーション ユーザ パスワードの変更	2-17
Cisco Unified Serviceability へのアクセス	2-17
ログ ファイルの検査	2-18



このマニュアルについて

ここでは、次の内容について説明します。

- [対象読者と用途 \(P.v\)](#)
- [表記法 \(P.v\)](#)
- [Cisco Unity Connection のドキュメント \(P.vi\)](#)
- [技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン \(P.vi\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P.vi\)](#)

対象読者と用途

『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド』は、Cisco Unity Connection システムのインストールを担当する方を対象としています。パーソナル着信転送ルールで使用するために、テキスト / スピーチを使用した Microsoft Exchange 電子メール メッセージへのアクセス、あるいは Exchange カレンダーや連絡先へのアクセスを設定する場合は、Microsoft Exchange の実用知識が必要です。

表記法

表 1 『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド』の表記法

表記法	説明
太字	次の場合は太字を使用します。 <ul style="list-style-type: none">• キーおよびボタン名 (例 : [OK] をクリックします)。• ユーザが入力する情報 (例 : [ユーザ名] ボックスに Administrator を入力します)。
<> (山カッコ)	ユーザが入力するパラメータを囲むために使用します (例 : ブラウザで https://<Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス>/cuadmin にアクセスします)。
- (ハイフン)	同時に押す必要があるキーを表します (例 : Ctrl-Alt-Delete を押します)。
> (右山カッコ)	Cisco Unity Connection の管理のナビゲーション バーで選択する順序を表します (例 : Cisco Unity Connection の管理で、[連絡先] > [システム連絡先] を選択します)。

『Cisco Unity Connection インストレーションガイド』では、次の表記法も使用します。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このドキュメント以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

Cisco Unity Connection のドキュメント

Cisco.com 上の Cisco Unity Connection に関するドキュメントの説明と URL については、『Documentation Guide for Cisco Unity Connection』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unity Connection に同梱されていますが、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_documentation_roadmaps_list.html から入手することもできます。

技術情報の入手方法、サポートの利用方法、およびセキュリティ ガイドライン

技術情報の入手、サポートの利用、技術情報に関するフィードバックの提供、セキュリティ ガイドライン、推奨するエイリアスおよび一般的なシスコのマニュアルに関する情報は、月刊の『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。ここでは、新規および改訂版のシスコの技術マニュアルもすべて記載されています。次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、export@cisco.com まで電子メールを送信してください。



Cisco Unity Connection 2.x システムのインストールに必要なタスクの概要

次のハイレベル タスク リストを使用して、Cisco Unity Connection 2.x システムを正しくインストールします。このタスクは、『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド』およびその他の Cisco Unity Connection ドキュメントに記載されている詳細な手順を参照します。これらのドキュメントに従って、正しくインストールを完了してください。

このタスク リストにより Cisco Unity Connection システムを完全にインストールできます。つまり、Connection サーバのインストールと設定から、Connection システムへのユーザ データおよび通話管理データの入力、IMAP クライアントを使用したボイス メッセージへのアクセスや Connection データのバックアップなどのオプション機能のセットアップまで実行できます。

このリストは、次の 9 つのパートに分かれています。

- [パート 1 : Cisco Unity Connection サーバのインストールと設定 \(P.1-2\)](#)
- [パート 2 : 管理者のワークステーションのセットアップ \(P.1-2\)](#)
- [パート 3 : 電話システム連動のセットアップ \(P.1-2\)](#)
- [パート 4 : システムへのユーザ データと通話管理データの入力 \(P.1-3\)](#)
- [パート 5 : システムの機能の設定 \(P.1-5\)](#)
- [パート 6 : VPIM ネットワーキングのセットアップ \(P.1-5\)](#)
- [パート 7 : ユーザのワークステーションのセットアップ \(P.1-6\)](#)
- [パート 8 : Cisco Unity Connection データのバックアップ \(P.1-6\)](#)
- [パート 9 : 教育 \(P.1-6\)](#)

タスクの中には、特定の環境だけに適用されるものがあります (その場合は注意書きがあります)。使用している環境に当てはまらないタスクは省略してください。

パート1 : Cisco Unity Connection サーバのインストールと設定

1. 次の要件を確認します。
 - a. Cisco Unity Connection 2.x システムのシステム要件。『Cisco Unity Connection 2.x システム要件』を参照してください。
 - b. 電話システム連動の要件。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html から入手可能な、該当する Cisco Unity Connection のインテグレーション ガイドの「Requirements」の項を参照してください。
2. 必要に応じて、インストールする Connection の言語をダウンロードします。『Cisco Unity Connection リリース ノート』を参照してください。
3. Cisco Unity Connection サーバをセットアップして設定します。このマニュアルの「オペレーティングシステムと Cisco Unity Connection のインストール」の章を参照してください。
4. 必要に応じて、Connection の言語をインストールします。『Cisco Unity Connection リリース ノート』を参照してください。

パート2 : 管理者のワークステーションのセットアップ

5. Cisco Unity Connection Web アプリケーションにアクセスするように、管理者のワークステーション上のブラウザを設定します。『Cisco Unity Connection システム アドミネストレーション ガイド』の「管理者ワークステーションでのブラウザの設定」の章を参照してください。
6. Real-Time Monitoring Tool ソフトウェアをダウンロードしてインストールします。『Real-Time Monitoring Tool アドミネストレーション ガイド for Cisco Unity Connection』の「Real-Time Monitoring Tool のインストールと設定」の章を参照してください。

パート3 : 電話システム連動のセットアップ

7. Cisco Unity Connection と電話システムとの連動をセットアップします。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html から入手可能な、該当する Cisco Unity Connection のインテグレーション ガイドを参照してください。
8. Cisco Unity Connection とともに出荷されるソフトウェアをすべて一緒に、安全ですぐに利用できる場所に保管します。

パート4：システムへのユーザデータと通話管理データの入力

パート4の多くのタスクは、Cisco Unity Connection の管理を使用して実行します（Connection の管理へのログインおよびその使用方法については、『Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection Administration へのアクセスと使用方法」を参照してください）。

パート4のタスクは、記載されているように、次のマニュアルの章を参照します。

- Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド
 - Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド
9. Connection のライセンスを入手してインストールします。『システム アドミニストレーション ガイド』の「ライセンスの管理」の章を参照してください。
 10. 次のような Cisco Unity Connection の概念をよく理解しておきます。
 - a. 通話管理。『システム アドミニストレーション ガイド』の「通話管理の概要」および「通話管理計画の作成」の章を参照してください。
 - b. ユーザ、管理者アカウント、テンプレート、サービス クラス、および役割。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のユーザと連絡先の概要」および「ユーザ アカウントを追加する前に」の章を参照してください。
 11. システム計画を立てます。
 - a. 営業時間と営業外時間、および祝日を特定する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「スケジュールと祝日の管理」の章を参照してください。
 - b. 通話管理計画を立てる。『システム アドミニストレーション ガイド』の「通話管理計画の作成」の章を参照してください。
 - c. デフォルトの規制テーブルを調べ、変更または新しいテーブルが必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「規制テーブルの管理」の章にある「概要：デフォルト規制テーブル」の項を参照してください。
 - d. 電話アクセスおよび Web ツール アクセスのためのパスワード ポリシーとアカウント ロックアウト ポリシー、および Web ツール アクセスのためのログオン ポリシーを決定する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パスワード、ログオン、およびロックアウトのポリシーの指定」の章を参照してください。
 - e. 必要な管理者アカウントの数とタイプ、および管理者アカウントに割り当てる役割を決定する。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ アカウントを追加する前に」の章を参照してください。
 - f. ユーザに対して有効にする機能を決定し、変更、または新しいテンプレートと COS が必要かどうかを判断する。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ アカウントを追加する前に」の章を参照してください。
 - g. デフォルトのメッセージ ストア割り当てを調べ、変更が必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「メールボックス サイズ使用割当量の指定」の章を参照してください。
 - h. デフォルトのメッセージ エージング ポリシーを調べ、変更が必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「メッセージ エージング ポリシーの変更」の章を参照してください。
 - i. デフォルトのシステム同報リストを調べ、変更または新しい同報リストが必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「システム同報リストの管理」の章を参照してください。
 12. タスク 11. で調べた次のデフォルトについて、必要に応じて変更を行うかまたは新しいものを作成します。
 - a. スケジュール。『システム アドミニストレーション ガイド』の「スケジュールと祝日の管理」の章を参照してください。

- b. 規制テーブル。『システム アドミニストレーション ガイド』の「規制テーブルの管理」の章を参照してください。
 - c. パスワード ポリシー、ロックアウト ポリシー、およびログオン ポリシー。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パスワード、ログオン、およびロックアウトのポリシーの指定」の章を参照してください。
 - d. サービス クラス。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「サービス クラスの追加、修正、削除」の章を参照してください。
 - e. ユーザ テンプレート。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ テンプレートの追加、修正、削除」の章を参照してください。
 - f. メッセージ エージング ポリシー。『システム アドミニストレーション ガイド』の「メッセージ エージング ポリシーの変更」の章を参照してください。
 - g. システム同報リスト。『システム アドミニストレーション ガイド』の「システム同報リストの管理」の章を参照してください。
13. システム コンフィギュレーションをテストします。
- a. テスト アカウントとして使用する Connection ユーザ アカウントを追加する。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のアカウントの個別追加」の章を参照してください。
 - b. テスト ユーザとして電話を使用して、Cisco Unity Connection にログオンし、名前を録音し、電話パスワードを設定する。電話を切ります。
 - c. Cisco Unity Connection にコールし、テスト ユーザとして再度ログオンし、ユーザのパスワード、グリーティング、およびガイダンスの各バージョンが正しく動作することを確認する。電話で適切な機能をテストすることで、ユーザが正しいサービス クラスを継承したことを確認します。
 - d. テスト ユーザとして Cisco Personal Communications Assistant (PCA) にログオンする。必要な COS 権限をテスト ユーザに与えた場合、Cisco PCA のホーム ページから適切な Web ツールを参照できることを確認します。
 - e. 必要に応じて、システム コンフィギュレーションを修正する。
14. 管理者アカウントを作成します。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のアカウントの個別追加」の章を参照してください。
15. ユーザ アカウントを作成します。必要に応じて、『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のアカウントの個別追加」、 「ユーザ アカウントを一括管理する」、または「Cisco Unified Communications Manager のユーザからの複数のユーザ アカウントの作成」の章を参照してください。
16. 必要に応じて、個々のユーザ アカウント設定をカスタマイズして機能を追加します。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ アカウントの設定によって制御される機能の設定」および「サービス クラスによって制御される機能の設定」の章を参照してください。
17. 必要に応じて、システム同報リストに個々のユーザを加えます。『システム アドミニストレーション ガイド』の「システム同報リストの管理」の章にある「システム同報リストのメンバーの管理」の項を参照してください。
18. タスク 11.b. で作成した通話管理計画を実装し、テストします。
- a. コールハンドラを作成する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「コールハンドラの管理」の章を参照してください。
 - b. ディレクトリハンドラの設定を指定する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「ディレクトリハンドラの管理」の章を参照してください。
 - c. インタビューハンドラを作成する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「インタビューハンドラの管理」の章を参照してください。
 - d. 着信サービスをセットアップする。『システム アドミニストレーション ガイド』の「着信サービスの管理」の章を参照してください。

パート5：システムの機能の設定

19. 任意のユーザが *Cisco Unity Web* ツールにアクセスする場合、または *IMAP* 電子メール クライアントを使用して *Connection* ボイス メッセージにアクセスする場合：*Connection* への *Cisco Personal Communications Assistant (PCA)* アクセスおよび *IMAP* アクセスを保護します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「*Cisco PCA* および *IMAP* 電子メール クライアントから *Cisco Unity Connection* へのアクセスの保護」の章を参照してください。
20. 任意のユーザが *Cisco Unified MeetingPlace Express* にアクセスする場合：*Cisco Unified MeetingPlace Express* との連動を設定したことを確認します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「*Cisco Unified MeetingPlace Express* との連動」の章を参照してください。
21. ユーザが *Text To Speech (TTS; テキスト/スピーチ)* を使用して *Exchange* 電子メールにアクセスする場合：*TTS* を使用した *Exchange* 電子メールへのアクセスを設定したことを確認します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「*Exchange* 電子メールへの *TTS* を使用したアクセスの設定」の章を参照してください。
22. ユーザが *Exchange* カレンダーおよび連絡先情報に基づいてパーソナル着信転送ルールを作成できる場合：*Exchange* カレンダーおよび連絡先へのアクセスを設定したことを確認します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パーソナル着信転送ルールで使用するための *Exchange* 予定表と連絡先へのアクセスの設定」の章を参照してください。
23. ユーザが *SMTP* メッセージの到着通知デバイスを使用する場合：ユーザのメッセージ通知をセットアップして有効にしたことを確認します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「到着通知 *SMTP* メッセージの設定」の章を参照してください。
24. 任意のユーザが *Cisco Unity Connection Phone View* にアクセスする場合：*Cisco Unified Communications Manager* を *Phone View* 用に設定したこと、および *Cisco Unity Connection* の管理で電話システムの *Phone View* を有効にしたことを確認します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「*Phone View* の設定」の章を参照してください。
25. 任意のユーザが *Cisco Unified Personal Communicator* にアクセスする場合：該当するサーバを設定し、クライアント アプリケーションをセットアップしたことを確認します。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「サービス クラスによって制御される機能の設定」の章にある「*Cisco Unified Personal Communicator* からのボイス メッセージへのアクセス」の項を参照してください。
26. 任意の管理者やユーザが *Cisco Unity Connection* のブロードキャスト管理機能にアクセスする場合：この機能をセットアップしたことを確認します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「ブロードキャストメッセージ機能の設定」の章を参照してください。
27. 任意の管理者やユーザが *Cisco Unity Connection* のグリーティング管理機能にアクセスし、電話機でグリーティングを管理する必要がある場合：この機能をセットアップします。『システム アドミニストレーション ガイド』の「録音済みのグリーティングと名前の録音の管理」の章にある「*Cisco Unity* グリーティング管理の設定」の項を参照してください。

パート6：VPIM ネットワーキングのセットアップ

28. ユーザが *VPIM* ネットワーキングを使用してリモートのボイス メッセージ システムにメッセージを送信する場合：*VPIM* ネットワーキングをセットアップします。『システム アドミニストレーション ガイド』の「*VPIM* ネットワークの使用法」の章を参照してください。

パート7: ユーザのワークステーションのセットアップ

パート7のタスクは、『Cisco Unity Connection ユーザワークステーションセットアップガイド』の章を参照します。

29. Cisco PCA へのアクセスを設定します。「Cisco Personal Communications Assistant へのアクセスの設定」の章を参照してください。
30. Media Master の再生および録音デバイスをセットアップします。「Media Master の再生デバイスと録音デバイスの設定」の章を参照してください。
31. Connection ボイス メッセージにアクセスするように IMAP 電子メール アカウントを設定します。「Cisco Unity Connection のボイス メッセージにアクセスするための電子メール アカウントの設定」の章を参照してください。
32. ユーザに対して有効にした Connection 機能にユーザがアクセスして、その機能を使用できることを確認します。

パート8: Cisco Unity Connection データのバックアップ

33. 『Disaster Recovery System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection』を参照してください。



(注) サードパーティ製のバックアップアプリケーションはサポートされていません。

パート9: 教育

34. ユーザ、オペレータ、およびサポート デスク担当者に Cisco Unity Connection システムの使用方を教育します。『ユーザワークステーションセットアップガイド』の「ユーザのオリエンテーション」および「オペレータとサポート デスクのオリエンテーション」の章を参照してください。



オペレーティング システムと Cisco Unity Connection のインストール

この章は、次の項で構成されています。

- [重要な考慮事項 \(P.2-1\)](#)
- [インストールに関する FAQ \(P.2-2\)](#)
- [ブラウザ要件 \(P.2-3\)](#)
- [ハードウェアの設定 \(P.2-3\)](#)
- [インストール情報の収集 \(P.2-4\)](#)
- [Cisco Unified Communications Answer File Generator の使用方法 \(P.2-9\)](#)
- [インストール中のネットワーク エラーの処理 \(P.2-10\)](#)
- [インストールの概要 \(P.2-10\)](#)
- [新しいオペレーティング システムとアプリケーションのインストール \(P.2-11\)](#)
- [インストール後の作業 \(P.2-17\)](#)

重要な考慮事項

インストールを開始する前に、次の要件および推奨事項を考慮してください。

- 既存のサーバにインストールすると、ハード ドライブがフォーマットされ、そのドライブの既存データがすべて上書きされます。
- 中断による影響を避けるため、オフピーク時またはメンテナンス時にソフトウェアをインストールします。
- スタティック IP アドレッシングを使用してサーバを設定することで、サーバに確実に固定 IP アドレスが割り当てられるようにします。
- インストール中は、どの設定作業も実行しないでください。
- インストールが完了するまでは、シスコで検証済みのどのアプリケーションもインストールしないでください。
- インストールを開始する前に、手順の説明を十分に注意して読んでください。

インストールに関する FAQ

この項では、頻繁に寄せられる質問とそれに対する回答を紹介します。インストールを開始する前に、この項の内容を十分に確認してください。

- [どのパスワードを指定する必要がありますか \(P.2-2\)](#)
- [このインストールでシスコがサポートしているのは、どのようなサーバですか \(P.2-2\)](#)
- [他のソフトウェアをサーバにインストールできますか \(P.2-2\)](#)

どのパスワードを指定する必要がありますか

インストールでは、次のユーザ名とパスワードの指定が必要です。

- 管理者アカウント

管理者のユーザ名とパスワードは、次の領域にログインするために使用します。

- Cisco Unified Communications Operating System Administration
- Disaster Recovery System
- コマンドライン インターフェイス

管理者ログインは、先頭が英文字で 6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。コマンドライン インターフェイスを使用すると、管理者パスワードを変更したり、新しい管理者アカウントを追加したりできます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

- アプリケーション ユーザ パスワード

アプリケーション ユーザ パスワードは、システムにインストールされているアプリケーションのデフォルト パスワードとして使用します。

アプリケーションごとに Web インターフェイスを使用して、アプリケーション ユーザ パスワードを変更できます。詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

このインストールでシスコがサポートしているのは、どのようなサーバですか

サポート対象のサーバについては、『*Cisco Unity Connection サポート対象プラットフォーム*』を参照してください。

他のソフトウェアをサーバにインストールできますか

ソフトウェアのインストールおよびアップグレードはすべて、Cisco Unified Communications Operating System Administration を使用して行う必要があります。アップロードおよび処理できるのは、シスコシステムズが承認したソフトウェアだけです。承認されていないサードパーティ製または Windows ベースのソフトウェア アプリケーションは、インストールや使用ができません。

ブラウザ要件

Cisco Unity Connection の管理および Cisco Unity Connection Serviceability には、次のブラウザでアクセスできます。

リモートワークステーションのオペレーティングシステム	サポートされるブラウザ
Windows XP、Windows 2000、または Windows 2003	<ul style="list-style-type: none"> Internet Explorer 6.0 または 7.0 Firefox 1.5 および Firefox 2.0
RedHat Linux Enterprise	<ul style="list-style-type: none"> Firefox 1.5 および Firefox 2.0

ハードウェアの設定

ソフトウェア インストールの一環として、システム インストーラは、新しいオペレーティングシステム用に、システムの BIOS および RAID の設定値を設定します。インストール中に設定される BIOS 設定値については表 2-1 を、RAID 設定値については表 2-2 を参照してください。



(注)

インストール中にハードウェア設定プロセスが失敗した場合は、IBM サーバと HP サーバの両方にあるブート時ユーティリティを使用して、表 2-1 および表 2-2 に示す RAID と BIOS の設定値を手動で設定できます。

表 2-1 HP サーバおよび IBM サーバの BIOS 設定値

HP サーバ	IBM サーバ
OS Selection : Linux(新しいモデルには適用されません)	OS Selection : 適用されません
Boot order : CD, C:, Floppy	Boot order : CD, C:, Floppy
Post F1 prompt : Delayed	Post F1 prompt : Delayed
Hyperthreading : Enabled	Hyperthreading : Enabled

表 2-2 RAID 設定値

MCS 7825 サーバ (HP および IBM)	MCS 7835 サーバ (HP および IBM)	MCS 7845 サーバ (HP および IBM)
Software RAID	Logical drives : 1	Logical drives : 2
Software RAID	RAID type : 1(1+0)	RAID type : 1(1+0)
<p>(注) HP 7825H1 および IBM 7825I1 では、SATA RAID が有効、RAID タイプが 1(1+0)、論理ドライブが 1 です。</p>		

インストール情報の収集

表 2-3 を使用して、サーバに関する情報を記録します。すべての情報を取得する必要はありません。システムおよびネットワーク設定に関連のある情報だけを収集します。



(注) 一部のフィールドは省略可能で、設定に適用されないことがあります。たとえば、SMTP ホストの設定は省略できます。



注意


一部のフィールドはインストール後に変更できません。変更するにはソフトウェアの再インストールが必要になります。正しい値を入力してください。

表の最後のカラムは、インストール後にそのフィールドを変更できるかどうかを示しています。変更できる場合は、Cisco Unified Communications Operating System Administration とコマンドライン インターフェイス (CLI) のどちらで変更できるかを示しています。

表 2-3 設定データ

設定データ	入力値	インストール後に値を変更できるか
Administrator Password		はい CLI > set password admin
Application User Password		はい CLI > set password
Country		はい CLI > set web-security
DHCP		はい CLI > set network dhcp
DNS Primary		はい CLI > set network dns
DNS Secondary		はい CLI > set network dns
Domain		はい CLI > set network domain
Domain Name Service DNS Enable		いいえ
Gateway Address		はい OS Administration > [Settings] > [IP] または CLI > set network gateway
Host Name		いいえ

表 2-3 設定データ (続き)

設定データ	入力値	インストール後に値を変更できるか
IP Address		はい OS Administration > [Settings] > [IP] または CLI > set network IP
IP Mask		はい OS Administration > [Settings] > [IP] または CLI > set network ip eth0
Location		はい CLI > set web-security
Master Administrator ID		いいえ
NTP Server IP Address		はい OS Administration > [Settings] > [NTP Servers]
 (注) 最大5つのNTPサーバを入力できます。		
Organization		はい CLI > set web-security
Security Password		はい CLI > set password security
SMTP Location		はい CLI > set smtp
State		はい CLI > set web-security
Time Zone		はい CLI > set timezone
Unit		はい CLI > set web-security

各インストールフィールドの詳細については、表 2-4 を参照してください。

■ インストール情報の収集

表 2-4 インストール フィールドの定義

フィールド	説明	使用方法
Administrator ID	このフィールドは、このアカウントに割り当てる名前を指定します。	名前は一意にする必要があります。小文字、英数字、ハイフン、および下線を使用できます。先頭は小文字の英数字にする必要があります。 この必須フィールドは、CLI または Cisco Unified Communications Operating System Administration へのログインに使用するために、記録する必要があります。
Administrator Password	このフィールドは、プラットフォームの CLI および Cisco Unified Communications Operating System Administration へのログインに使用するパスワードを指定します。	パスワードは 6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。 この必須フィールドは、CLI または Cisco Unified Communications Operating System Administration へのログインに使用するために、記録する必要があります。
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocol。	DHCP を使用してサーバのネットワーク設定値を自動的に設定する場合は、[Yes] を選択します。 [No] を選択した場合は、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、およびゲートウェイを入力する必要があります。
DNS Enabled	DNS サーバは、ホスト名を IP アドレスに、または IP アドレスをホスト名に解決するデバイスを表します。	DNS サーバがない場合は、[No] を入力します。DNS が無効になっている場合は、Cisco Unified Communications ネットワークのすべてのネットワーク デバイスの IP アドレス（ホスト名ではなく）だけを入力します。 DNS サーバがある場合は、[Yes] を入力して DNS を有効にすることを推奨します。DNS を無効にすると、一部のドメイン名を解決できなくなります。
DNS Primary	サーバは、ホスト名の解決を試みるとき、最初にこの DNS サーバに接続します。	プライマリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。IP アドレスは、ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進数形式で入力します。ddd の値は 0 ~ 255 です（0.0.0.0 は除く）。 DNS を [Yes] に設定した場合、このフィールドは必須です。
DNS Secondary	プライマリ DNS サーバに障害が発生した場合、サーバはセカンダリ DNS サーバへの接続を試みます。	このオプション フィールドに、セカンダリ DNS の IP アドレスを入力します。IP アドレスは、ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進数形式で入力します。ddd の値は 0 ~ 255 です（0.0.0.0 は除く）。
Domain	このフィールドは、このマシンが属するドメインの名前を表します。	DNS を [Yes] に設定した場合、このフィールドは必須です。
Gateway Address	ゲートウェイは、他のネットワークへの入口として機能するネットワーク ポイントを表します。発信パケットはゲートウェイに送信され、最終的な宛先に転送されます。	ddd.ddd.ddd.ddd の形式でゲートウェイの IP アドレスを入力します。ddd の値は 0 ~ 255 です（0.0.0.0 は除く）。 ゲートウェイがない場合でも、このフィールドは空白にせず、255.255.255.255 を指定する必要があります。ゲートウェイがない場合、通信対象が同じサブネットのデバイスに制限される可能性があります。

表 2-4 インストール フィールドの定義 (続き)


フィールド	説明	使用方法
Hostname	ホスト名は、ホストを識別する IP アドレスに割り当てられているエイリアスを表します。	ネットワークで一意的なホスト名を入力します。 ホスト名は最大 64 文字で、英数字とハイフンを使用できます。 DHCP を [No] に設定している場合、このフィールドは必須です。
IP Address	このフィールドは、このマシンの IP アドレスを指定します。この IP アドレスにより、ネットワークでサーバが一意的に識別されます。ネットワーク内の別のマシンで、この IP アドレスを使用しないでください。	ddd.ddd.ddd.ddd の形式で IP アドレスを入力します。ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。 DHCP を [No] に設定している場合、このフィールドは必須です。
IP Mask	このフィールドは、このマシンの IP サブネット マスクを指定します。サブネット マスクと IP アドレスで、ネットワーク アドレスとホスト アドレスを定義します。	ddd.ddd.ddd.ddd の形式で IP マスクを入力します。ddd の値は 0 ~ 255 です (0.0.0.0 は除く)。 有効なマスクは、左側に「1」ビットが連続し、右側に「0」ビットが連続します。 たとえば、255.255.240.0 (11111111.11111111.11110000.00000000) は有効なマスクです。 255.255.240.240 (11111111.11111111.11110000.11110000) は無効なマスクです。
NIC Speed	このフィールドは、サーバの Network Interface Card (NIC; ネットワーク インターフェイス カード) の速度 (1 秒あたりのメガビット数) を指定します。	指定できる速度は 10 または 100 です。
NIC Duplex	このフィールドは、サーバの NIC の二重設定を指定します。	指定できる設定値は [half] または [full] です。
NTP Server	このフィールドは、同期をとる NTP サーバを識別します。	NTP サーバ (複数可) のホスト名または IP アドレスを入力します。  (注) 後で、別の NTP サーバを追加したり、NTP サーバリストを変更したりできます。
NTP Server Enable	有効にした場合、このサーバは NTP サーバとして機能し、クラスタの後続ノードに最新の時間を提供します。	このマシンを NTP サーバとして有効にする場合は、[Yes] を選択します。

表 2-4 インストール フィールドの定義 (続き)

フィールド	説明	使用方法
Security Password	<p>クラスタのサーバは、セキュリティ パスワードを使用して相互に通信します。</p> <p>クラスタの後続 ノードごとに、同じセキュリティ パスワードを入力するように要求されます。</p>	<p>セキュリティ パスワードを入力します。</p> <p>確認パスワード フィールドに、同じパスワードを入力します。</p> <p>パスワードには、6 文字以上の英数字を使用する必要があります。ハイフンと下線を使用できますが、先頭は英数字にする必要があります。</p> <p> 注意 クラスタ内のすべてのノードに対して、同一のパスワードを入力する必要があります。</p>
Set Hardware Clock	<p>このフィールドは、マシンの日付と現地時間を指定します。</p> <p> (注) ハードウェア クロックを手動で設定する場合、ノードは時刻同期に外部の NTP サーバを使用しません。</p>	<p>選択した時間帯の日付と現地時間を設定する場合は、[Yes] を選択します。</p> <p>時間は 24 時間形式で入力します。</p> <p> (注) 外部 NTP サーバを設定する場合、ハードウェア クロックは自動的に設定されます。</p>
SMTP	<p>このフィールドは、電子メールの発信に使用する SMTP ホストの名前を指定します。</p>	<p>SMTP サーバのホスト名またはドット付き IP アドレスを入力します。ホストには、英数字、ハイフン、ピリオドを使用できます。ホスト名の先頭は英数字にする必要があります。</p> <p>電子通知を使用する場合、このフィールドは必須です。使用しない場合は空白のままかまいません。</p>
Subnet IP Address	<p>サブネット アドレスを入力して、この NTP サーバに照会するためのアクセスを許可する IP アドレスの範囲を指定できます。</p>	<p>NTP サーバへのアクセスを許可する IP サブネットを入力します。</p> <p>インストール中に入力できるサブネットは 2 つだけです。</p>
Subnet Mask	<p>このフィールドは、サブネット アドレスのサブネット マスクを指定します。</p>	<p>IP サブネットのサブネット マスクを入力します。</p>
Time zone	<p>このフィールドは、現地時間帯と Greenwich Mean Time (GMT; グリニッジ標準時) からのオフセットを指定します。</p>	<p>時間帯を変更する場合は、[Yes] を選択します。</p> <p>マシンがある場所に最も近い時間帯を選択します。</p>

Cisco Unified Communications Answer File Generator の使用方法

Cisco Unified Communications Answer File Generator は、Cisco Unity Connection の無人インストール用の応答ファイルを生成する Web アプリケーションです。個々の応答ファイルは、インストールプロセス中に、Cisco Unity Connection の DVD に付属の USB キーまたはフロッピー ディスクにコピーされます。

この Web アプリケーションでは、次の機能がサポートされています。

- パブリッシャ サーバとすべてのサブスクリバ サーバにおける無人インストール用応答ファイルの同時生成と保存
- データ入力 of 構文的な検証
- オンラインのヘルプおよびマニュアルの表示

使用方法について次の要件が適用されます。

- この Web アプリケーションでは、フレッシュ インストールのみサポートされます (たとえば、アップグレードは含まれません)。
- DHCP クライアントがパブリッシャ サーバで使用されていて、サブスクリバ サーバの応答ファイルも生成されている場合、パブリッシャ サーバの IP アドレスを指定する必要があります。

Cisco Unified Communications Answer File Generator には、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/web/cuc_afg/index.html

Cisco Unified Communications Answer File Generator では、Internet Explorer バージョン 6.0 以降および Mozilla バージョン 1.5 以降がサポートされています。

USB キーを Cisco Unity Connection の無人インストールの実行に使用する場合は、必要に応じて、事前に USB キーを FAT32 ファイル システムに再フォーマットします。USB キーの記憶容量が大きく (たとえば 1 GB)、FAT ファイル システムでフォーマットされている場合は、特に再フォーマットが必要です。

次に示すように Windows XP のディスクの管理ユーティリティを使用して、USB キーを FAT32 ファイル システムに再フォーマットできます (この作業を実行するには、管理者または Administrators グループのメンバーとしてログインしている必要があります)。

-
- ステップ 1** Windows XP PC の USB スロットに USB キーを挿入します。
 - ステップ 2** [スタート] > [コントロール パネル] > [管理ツール] を選択し、[コンピュータの管理] をダブルクリックします。
 - ステップ 3** [記憶域] ツリーを展開し、[ディスクの管理] をクリックします。
 - ステップ 4** [リムーバブル ディスク] アイコンを右クリックして [フォーマット] をクリックします。
 - ステップ 5** このパーティションをフォーマットするかどうかの確認が求められたら、[はい] をクリックします。
 - ステップ 6** [ファイル システム] プルダウン メニューから [FAT32] を選択します。

■ インストール中のネットワーク エラーの処理

ステップ7 [OK] をクリックします。ボリュームのフォーマットを確認するプロンプトが表示されたら、もう一度 [OK] をクリックします。

これで、[リムーバブルディスク] アイコンのファイルシステムが [FAT32] と表示されるようになります。

インストール中のネットワーク エラーの処理

インストール プロセスでは、入力したネットワーク設定でサーバがネットワークに正常に接続できるかどうかインストール プログラムによって検証されます。接続できない場合、メッセージが表示され、次のいずれかのオプションを選択するよう要求するプロンプトが表示されます。

- **[RETRY]**: インストール プログラムがネットワークングをもう一度検証しようとします。検証に再度失敗すると、エラー ダイアログボックスがもう一度表示されます。
- **[REVIEW (Check Install)]**: このオプションを使用すると、ネットワーク設定を確認して変更できます。インストール プログラムはネットワーク設定ウィンドウに戻ります。


各ネットワーク ウィンドウの完了後にネットワークングが検証されるので、メッセージが複数回表示されることがあります。ネットワーク設定ウィンドウの確認中にメッセージが表示された場合は、[IGNORE] を選択して次のウィンドウに移動します。[REVIEW] を選択すると、最初のネットワーク設定ウィンドウがもう一度表示されます。

- **[HALT]**: インストールが一時停止します。インストール ログ ファイルを USB ディスクにコピーして、ネットワーク設定のトラブルシューティングに役立てることができます。
- **[IGNORE]**: インストールを続行します。ネットワーク エラーがログに記録されます。場合によっては、インストール プログラムがネットワークングを複数回検証するので、このエラー ダイアログボックスが複数回表示されることがあります。

インストールの概要

表 2-5 は、Cisco Unity Connection 2.x でサポートされているインストール オプションを示しています。

表 2-5 インストール オプション

インストールのタイプ	説明
Basic Install	このオプションは、Cisco Unity Connection 2.x の基本的なインストールを表します。
Upgrade During Install	このオプションを使用すると、インストール ディスクに格納されているソフトウェア バージョンを最新のリリースでアップグレードできます。
	 <p>(注) このオプションを選択する前に、DVD またはリモート サーバでソフトウェア イメージが使用できることを確認してください。</p>

新しいオペレーティングシステムとアプリケーションのインストール

ここでは、オペレーティングシステムと Cisco Unity Connection アプリケーションをインストールする方法について説明します。オペレーティングシステムとアプリケーションは、1つのインストールプログラムを実行することでインストールします。この項では、インストールプログラムを使用する手順を、次の主要なトピックに分けて説明します。

- [インストレーション ウィザード内の移動 \(P.2-11\)](#)
- [インストールの開始 \(P.2-11\)](#)
- [既存の設定情報の入力 \(P.2-13\)](#)
- [基本インストールの実行 \(P.2-13\)](#)
- [サーバの設定 \(P.2-15\)](#)

インストレーション ウィザード内の移動

インストレーション ウィザード内を移動する方法については、[表 2-6](#) を参照してください。

表 2-6 インストレーション ウィザード内の移動

目的	操作
次のフィールドに移動	Tab キーを押す
前のフィールドに移動	Alt + Tab キーを押す
オプションを選択	スペースバーを押す
リストをスクロール アップまたはスクロールダウン	↑ キーまたは ↓ キーを押す
前のウィンドウに移動	スペースバーを押して [Back] を選択 (可能な場合)
ウィンドウのヘルプ情報を表示	スペースバーを押して [Help] を選択 (可能な場合)

インストールの開始

ステップ 1 インストール DVD をトレイに挿入し、サーバを再起動して、DVD からブートします。サーバのブートシーケンスが完了すると、[DVD Found] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 メディアチェックを実行するには [Yes] を、メディアチェックを省略するには [No] を選択します。



(注) 新しいサーバに Cisco Unity Connection がプレインストールされているときは、最新の製品リリースでサーバを再イメージ化する場合を除いて、DVD からインストールする必要はありません。直接 [P.2-13](#) の「[既存の設定情報の入力](#)」に進みます。

ステップ 3 [Yes] を選択してメディアチェックを実行すると、[Media Check Result] ウィンドウが表示されます。次の作業を実行します。

- [Media Check Result] に [Pass] と表示された場合は、[OK] を選択してインストールを続行します。
- メディアチェックでメディアの障害が検出された場合は、別のコピーを Cisco.com からダウンロードするか、別のディスクをシスコから直接入手してください。

ステップ4 システム インストーラによって、次のようなハードウェア チェックが実行され、システムが正しく設定されていることが確認されます。

- 最初に、ドライバが正しいことが確認されます。次の警告が表示される場合があります。

Drivers not found, do you want to install manually?

インストールを続行するには、[Yes] を選択します。

- 次に、ハードウェア プラットフォームがサポート対象かどうかを確認されます。サーバが正しいハードウェア要件を満たしていない場合、インストール プロセスは致命的なエラーで失敗します。この失敗が間違いであると考えられる場合は、エラーをキャプチャして、シスコのサポートに報告してください。
- 次に、RAID 設定値と BIOS 設定値が確認されます。インストール プロセスでハードウェア設定が変更された場合、システムを再起動するよう要求するプロンプトが表示されます。

ハードウェア チェックが完了すると、[Product Deployment Selection] ウィンドウが表示されます。

ステップ5 [Product Deployment Selection] ウィンドウで、インストールする製品を選択して、[OK] を選択します。次のオプションの中から選択できます。

- Cisco Unified Communications Manager
- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Communications Manager Business Edition (Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection を含む)



(注) 使用するサーバでサポートされる製品だけがリストに表示されます。

[Overwrite Hard Drive] ウィンドウが表示されます。

ステップ6 [Overwrite Hard Drive] ウィンドウに、ハード ドライブにある現在のソフトウェア バージョン (存在する場合) および DVD のバージョンが表示されます。インストールを続行するには [Yes] を、キャンセルするには [No] を選択します。



注意

[Overwrite Hard Drive] ウィンドウで [Yes] を選択した場合、ハード ドライブに存在する既存のデータすべてが上書きされて失われます。

[Platform Installation Wizard] ウィンドウが表示されます。

ステップ7 ここでプラットフォームを設定するには [Proceed] を選択します。後でプラットフォームを設定する場合は [Skip] を選択します。

- ここでソフトウェアをインストールして設定する場合は、[Proceed] を選択し、この手順を続行します。
- ここでソフトウェアをインストールして設定は後で行う場合、またはサーバに Cisco Unified Communications Manager Business Edition がプレインストールされている場合は、[Skip] を選択し、P.2-13 の「既存の設定情報の入力」に進みます。

- ステップ 8** [Basic Install] ウィンドウで、[Continue] を選択して、DVD のソフトウェアバージョンをインストールするか、またはプレインストールされているソフトウェアを設定します。P.2-13 の「基本インストールの実行」に進みます。

既存の設定情報の入力

サーバに製品がプレインストールされている場合、または [Platform Installation Wizard] ウィンドウで [Skip] を選択した場合は、ここから開始します。

- ステップ 1** システムを再起動した後、[Pre-existing Installation Configuration] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Answer File Generator で生成された既存の設定情報がフロッピー ディスクか USB キーに格納されている場合は、ここでディスクまたは USB キーを挿入して、[Continue] を選択します。インストールプロセス中に、設定情報がインストールレーション ウィザードに読み取られます。



(注) システムが新しいハードウェアを検出したというポップアップ ウィンドウが表示された場合は、任意のキーを押し、次のウィンドウで [Install] を選択します。

[Platform Installation Wizard] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** [Proceed] を選択して、Platform Installation Wizard を続行します。
- ステップ 4** [Basic Install] ウィンドウで、[Continue] を選択します。P.2-13 の「基本インストールの実行」に進みます。

基本インストールの実行

- ステップ 1** [Timezone Configuration] が表示されたら、サーバの適切な時間帯を選択して [OK] を選択します。

[Auto Negotiation Configuration] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** インストール プロセスで、自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット NIC の速度と二重設定を自動的に設定できます。この設定は、インストール後に変更可能です。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには [Yes] を選択します。[DHCP Configuration] ウィンドウが表示されます。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには [No] を選択します。[NIC Speed and Duplex Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度と二重設定を手動で選択し、[OK] を選択して続行します。

[DHCP Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ネットワーク設定では、ノードのネットワーク固定 IP アドレスを設定するか、DHCP を使用するかを選択できます。

- ネットワークで DHCP サーバが設定されていて、DHCP を使用する場合は、[Yes] を選択します。ネットワークが再開し、[Administrator Login Configuration] ウィンドウが表示されます。
- ノードの固定 IP アドレスを設定する場合は、[No] を選択します。[Static Network Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 DHCP を使用しない場合は、固定ネットワーク設定値を入力し、[OK] を選択します。フィールドの説明については、表 2-4 を参照してください。

[DNS Client Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 DNS を有効にするには、[Yes] を選択して DNS クライアント情報を入力し、[OK] を選択します。フィールドの説明については、表 2-4 を参照してください。

新しい設定情報でネットワークが再開し、[Administrator Login Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 表 2-3 を参照して、管理者ログインとパスワードを入力します。



(注) 管理者ログインは、先頭が英文字で 6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。管理者ログインは、Cisco Unified Communications Operating System Administration、コマンドライン インターフェイス、および Disaster Recovery System へのログインに必要です。

[Certificate Information] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 証明書署名要求情報を入力し、[OK] を選択します。

P.2-15 の「サーバの設定」に進みます。

サーバの設定

基本インストールが終了したら、次の手順に従って、サーバを設定します。

ステップ 1 [Network Time Protocol Client Configuration] ウィンドウが表示されます。

システムの時刻を正確にするために、外部 NTP サーバを使用することを推奨します。外部 NTP サーバがストラタム 9 またはそれより上位 (つまり、ストラタム 1 ~ 9) であることを確認してください。

ステップ 2 外部 NTP サーバを設定するか、システムの時刻を手動で設定するかを選択します。

- 外部 NTP サーバを設定するには、[Yes] を選択し、1 つ以上の NTP サーバの IP アドレス、NTP サーバ名、または NTP サーバプール名を入力します。最大 5 つの NTP サーバを設定できます。3 つ以上を使用することを推奨します。[Proceed] を選択して、インストールを続行します。システムは NTP サーバに接続して、自動的にハードウェアクロックの時刻を設定します。



(注) [Test] ボタンが表示されている場合は、[Test] を選択して、NTP サーバにアクセスできるかどうかを確認できます。

- システムの時刻を手動で設定するには、[No] を選択し、適切な日付と時刻を入力して、ハードウェアクロックを設定します。[OK] を選択して、インストールを続行します。

[Database Access Security Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 表 2-3 を参照して、データベースアクセスセキュリティパスワードを入力します。



(注) データベースアクセスセキュリティパスワードは、先頭が英数字で 6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。このパスワードによって、ノード間の通信が認証されます。このパスワードは、クラスタ内のすべてのノードで同一にする必要があります。

[SMTP Host Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 SMTP サーバを設定する場合は、[Yes] を選択して、SMTP サーバ名を入力します。



(注) 特定のプラットフォーム機能を使用するように SMTP サーバを設定する必要があります。ただし、プラットフォーム GUI またはコマンドライン インターフェイスを使用して、後で SMTP サーバを設定することもできます。

ステップ 5 [OK] を選択します。[Application User Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 表 2-3 を参照してアプリケーション ユーザのユーザ名とパスワードを入力し、確認のためにもう一度パスワードを入力します。

ステップ 7 [OK] を選択します。[Platform Configuration Confirmation] ウィンドウが表示されます。

■ 新しいオペレーティングシステムとアプリケーションのインストール

ステップ 8 インストールを続行するには [OK] を、プラットフォーム設定を変更するには [Back] を選択します。

ソフトウェアがインストールおよび設定されます。

ステップ 9 インストール プロセスが完了すると、管理者アカウントとパスワードでログインするよう要求するプロンプトが表示されます。


ステップ 10 P.2-17 の「インストール後の作業」に示すアップグレード後の作業を完了します。

インストール後の作業

Cisco Unity Connection をサーバにインストールしたら、使用を開始する前に、設定パラメータの指定など、インストール後の作業を実行しておく必要があります。これらの作業はインストール対象のサーバに対して実行し、クラスタ内の他のサーバにインストールする前に完了してください。

インストール後に実行する必要がある作業については、表 2-7 を参照してください。

表 2-7 インストール後の作業

インストール後の作業	注意事項
Cisco Unity Connection アプリケーション ユーザとしてログインし、アプリケーション ユーザのパスワードを変更します。	P.2-17 の「デフォルトのアプリケーション ユーザパスワードの変更」を参照してください。
実行する Cisco Unity Connection 機能サービスをアクティブにします。 機能サービスをアクティブにする前に、必要なアクティブ化前作業を実行する必要があります。サービスのアクティブ化の要件については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。	『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。 P.2-17 の「Cisco Unified Serviceability へのアクセス」を参照してください。
 注意 Cisco Unity Connection サービスは、Cisco Unified Serviceability でアクティブにする必要があります。	
バックアップ設定値を設定します。 Cisco Unity Connection データのバックアップは、毎日必ず実行してください。	『Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド』を参照してください。
Cisco IP Telephony ネットワークに、認証と暗号化を実装することを推奨します。	『Cisco Unified Communications Manager セキュリティガイド』を参照してください。

デフォルトのアプリケーション ユーザパスワードの変更

インストール プロセスでは、すべてのアプリケーション ユーザパスワードが、インストール中に入力したアプリケーション ユーザパスワードと同一のものに設定されます。Cisco Unity Connection の管理にログインし、これらのパスワードを変更することを推奨します。パスワードを変更する手順については、オンライン ヘルプを参照してください。

Cisco Unified Serviceability へのアクセス

Web アプリケーションにアクセスするには、Cisco Unity Connection サーバにネットワーク アクセスが可能な PC で、Web ブラウザを使用する必要があります。

すべてのサービスはクラスタ内の各サーバにインストールされますが、クラスタ内の各サーバ上で実行するサービスは、Cisco Unified Serviceability を使用して、手動でアクティブにする必要があります。サービスに関する推奨事項や詳細については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

ログ ファイルの検査

インストールで問題が発生した場合は、コマンドライン インターフェイスで次のコマンドを入力することで、インストール ログ ファイルを取得して検査できます。

インストール ログ ファイルのリストをコマンドラインから取得するには、次のように入力します。

```
CLI>file list install *
```

ログ ファイルをコマンドラインから表示するには、次のように入力します。

```
CLI>file view install log_file
```

ここで、*log_file* はログ ファイル名です。

Real-Time Monitoring Tool を使用して、ログを表示することもできます。Real-Time Monitoring Tool の使用およびインストールの詳細については、『*Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。